



ダイズ病害虫の防除を徹底しましょう！

ダイズに発生する害虫では、莢を加害するダイズサヤタマバエやマメシクイガなどや葉を加害するハスモンヨトウなどがあります。また、子実には紫斑病が発生します。これらの病害虫は、主にダイズの開花期から子実肥大期にかけて発生し、収量や品質の低下を招くため大きな減収につながりますので、この期間における防除を徹底してください。



ダイズサヤタマバエ
(蛹脱出後の莢内面)



マメシクイガ
(莢内の幼虫と糞)



シロイチモジマダラメイガ
(幼虫と被害)



ハスモンヨトウ
(老齢幼虫) (写真：病害虫防除所)



紫斑病

防除のポイント



病害虫の発生を
よく観察しましょう!!

開花日をチェックして
防除時期を決めましょう!!

開花日?
月 日?



- 害虫対策** ダイズ害虫は種類が多く、加害時期や防除適期が複雑で微妙に異なるため、薬剤防除時期の目安として、開花後 10～15 日頃より約 10 日～2 週間間隔で 3～4 回行う必要があります。前半はサヤタマバエや莢内子実を食害するシロイチモジマダラメイガ等が中心で、中～後半はカメムシ類や食葉性のハスモンヨトウ、オオタバコガが中心となります。なお、カメムシ類やハスモンヨトウ等が多発生した場合は、適宜、追加防除が必要になります。
- ハスモンヨトウやオオタバコガ幼虫は老齢になると薬剤の防除効果が低下するため、圃場をよく観察し、若齢期のうちに防除を行ってください。なお、その際は葉裏や株元にも十分薬液がかかるように散布してください。**
- 紫斑病対策** 紫斑病は、開花後 15～40 日間に 1～2 回の薬剤散布を行い、その後も降雨が続く場合には追加防除を実施してください。

第 1 表 ダイズ主要害虫の主な防除薬剤

(令和 8 年 7 月 27 日現在)

薬 剤 名	対 象 害 虫					希釈倍率または 使用量	収穫前日数／使用回数	分類
	ハスモン ヨトウ	シロイチモジ マダラメイガ	マメシクイガ	ダイズサヤ タマバエ	カメムシ類			
プロフレア SC	○		○	○		2,000～4,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	30
キラップフロアブル					○	2,000 倍	収穫 7 日前まで／ 2 回以内	2B
スタークル顆粒水溶剤				○	○	2,000 倍	収穫 7 日前まで／ 2 回以内	4A
プレオフロアブル	○		○			1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで／ 2 回以内	UN
プレバソソフロアブル 5	○		○			4,000 倍	収穫 7 日前まで／ 2 回以内	28
アタブロン乳剤	○					2,000～4,000 倍	収穫 14 日前まで／ 2 回以内	15
トレボン乳剤	○	○	○	○	○	1,000 倍	収穫 14 日前まで／ 2 回以内	3A
トレボン粉剤 DL	○	○	○	○	○	4kg/10a		
スミチオン乳剤		○		○	○	1,000 倍	収穫 21 日前まで／ 4 回以内	1B
			○			1,000～1,500 倍		

注 1) 無人航空機または少量散布専用ノズルを装着した乗用型散布機を用いる場合は、それぞれの農薬使用基準を遵守して使用してください。

注 2) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。

第 2 表 ダイズ紫斑病の主な防除薬剤

(令和 8 年 7 月 27 日現在)

薬 剤 名	希釈倍率または使用量	使用時期 / 使用回数	分類
Zボルドー	500 倍	発病前～発病初期 / —	M01
アミスター20 フロアブル ※	2,000～ 3,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	11
ファンタジスタ顆粒水和剤 ※	2,000～ 4,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内	11
ゲッター水和剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 3 回以内	1 と 10

注 1) ※印の薬剤系統には、ダイズ紫斑病において薬剤感受性の低下傾向が確認されていますので、連用は避けてください。

注 2) 分類欄には、FRAC コードを記載しました。同一分類 (コード) は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 宮農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。